

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561 mail info@kouhoku-saibora.net

HP <http://www.kouhoku-saibora.net>

2016年6月



©横浜市港北区ミズキ

*入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください

「つながりがそなえ」を作り出そう 白井新会長挨拶

港北災害ボランティア連絡会の役員会で推薦を受け、総会で会長に選出されました。当会は阪神淡路大震災後の1998年に設立されました。全国から救援活動に駆けつける災害ボランティアを受け入れ、助けを必要としているところへ派遣する調整活動を行います。ニーズを的確に把握し、その要望を満たす災害ボランティアを派遣するには、被災者と災害ボランティア双方に対して丁寧な情報発信と正確な情報の聞き取りが必要です。これらの能力向上を図るためにシミュレーションやセミナーを実施してきました。連絡会ニュースの内容も区内の連絡会イベント、地域の諸団体の防災会の取り組み、国内防災の動き、防災グッズの紹介等と多岐にわたっています。

2016年度事業方針で決まった「つながりがそなえ」を作るために区内外の団体との連携を図ります。昨年起きた北関東・東北豪雨で大きな被害を受けた常総市に対し避難所支援や募金活動等で具体的な動きを始めた事は大きな前進です。それは港北区内で被災地支援活動をしている中高生や他団体との連携へと発展していきました。今年度はそれらをより発展させる活動をしていきたいと思えます。港北内の28地域防災拠点の中からモデル拠点を設けて災害ボランティアのPRを行うとともに、その拠点を足がかりに他の防災拠点へと連携を広げていく活動をしたいと思えます。

会員の皆様のご協力をお願いします。

新しい一歩を踏み出した総会終了



水害で大きな被害を受けた常総市での支援活動をした2015年度は港北災ボラにとって新しい学びと前進ができた年でした。それを受け継ぎ2016年度は「つながりがそなえ」として、進化する災ボラ活動を目指し熱心な総会討議を行いました。

「未災地」意識を持って、「聞く、学ぶ」から「話す、伝える」団体へと進化していくこと、そのため区内外の団体との連携強化を図ること、地震だけでなく多くの災害に意識を向ける防災ボランティア団体を目指す事業方針を全員で確認しました。

今年の活動の柱は次のとおりです。

- 1、会員がつながり、楽しく学ぶ災ボラ、役に立つ災ボラ
- 2、地域とつながり命を守る知恵を出す災ボラ
- 3、地域や被災地とつながり、汗を書いて動く災ボラ

開催日：2016年5月18日 10:00～11:30

開催場所：港北区福祉保険活動拠点

出席者：港北区ボランティア連絡会、あじさいの会、梅の会、篠原地区ボランティア連絡会、富士塚ボランティアグループ、仲手原マザークラブ、北部失語症友の会、港北区聴覚障害者協会、かれん、びーのびーの、個人5名、矢崎、片桐、藤原（事務局）、丸山、厚地（区役所）



冒頭に長年連絡会会長を務めてこられた井上会長から最後の挨拶がありました。

【議事】

2016年度役員を選任

会長：白井保 副会長：宇田川規夫、矢崎哲一郎（港北区社協） 会計：付岡博子、小澤美津子 書記：中島一郎、鈴木恵子 監査：山中奈子、村野明美 広報：山本正史、木村志義

備品としてトランシーバー3台を購入。野外活動で訓練会を行う予定。

(質疑)

- ・ 会計報告や予算書が前年活動と対比できるような書式にして欲しい。
 - ・ 地域団体やセーフティーネット分科会との連携強化
 - ・ 区から拠点に配布した「地域防災拠点の生活ルール作り」について説明をする機会が欲しい
- と行った意見などを頂いた上で、新年度計画と予算が承認されました。議長の山口さん(びーのびーの)書記の中島さん、鈴木さん、おつかれさまでした。

続いて5月定例会が開かれ、以下を確認しました。

1、6/11どろっぷデー 手伝い 佐藤、古川、宇田川、藤原

2、マスコットキャラクター
メインは旗をもっているものを使用し(一面掲載)残りもテーマ・ニーズに応じて使用する

マスコットの名前を決めてはどうか・・・PRタスクで原案を検討

3、タスクごとの話し合い

4、その他

年間予定に以下を追加

10/22区民祭り、ミニらくらく市(10/16) その他、区内の行事があれば教えて欲しい

10/28 港北公会堂前広場「ボランティア広場」に出展してはどうか

日吉で実施した熊本地震の募金について、振込みを終了

最後に井上前会長に花束を贈呈しました。井上さん、本当に長い間ありがとうございました。

見てきた熊本

小松由希子

大倉山ミエルの小松さんが熊本地震報告を寄せて下さいました。行かなければ見えないもの、報道では分からないものが見えてきます。

今年のGWの3日間、家族の理解のもと、大学時代を過ごした熊本へ帰らせてもらいました。実際見てきた被災地は、どうにもならない状況と、日常と、エネルギーとが入り交ざっていました。大地震が起きてからの2~3日は、避難先でテレビもなく携帯の充電もままならない友人達へ、LINEを利用し、ライフライン等の情報を送り続

けていました。(LINEは震災直後でも使え、しばらくは携帯電話の充電がままならなかったそうで、とても役立ちました)

被災地の友人たちも、日々の状況を伝えてくれていましたが、やはり直接会って話がしたい、という思いが強くなり、熊本行きを伝えました。すると、かえって迷惑になるかもしれないという心配をよそに、「おいでおいで!顔見せに来るだけで充分!」の一言でした。そして5月3日、福岡を経由して熊本へ。熊本駅では、友人家族がいつも通りの笑顔で出迎えてくれ、車で友人宅へ向かう途中に、被害の多かった益城町を中心に案内してもらいました。

私一人にやれることは何もないかもしれないと思いましたが、滞在中は、建築士という立場で急きよ被害を受けた家を見させていただいたり、滞在先の子供達と遊んだり、歴史ある長屋の片づけを手伝わせていただいたり。無駄な時間は一つありませんでした。



ボランティアによる子どもカフェ
親御さんもホッと一息

一方で、様々な現実も目の当たりにしました。倒壊した多くの建物。大きなストレスを抱えて、でも気持ちのやり場がない子供たち。体が不自由にて、自ら情報を取りに行くこともできず、避難する気力なくした高齢者の方。今後の収入の不安を抱える若い人達。このような方々の気持ちに寄り添い、先へ進む糸口を見付ける作業が急務に思えました。今置かれた状況から、どの方向に進めばいいかもわからなくて、不安に駆られてしまっている人が本当に多かったからです。

実際、避難所のおばあちゃん達に、「家を見たけど、今住むには危険だから、まずは新しい避難所に移って命を最優先しながら、ここの相談窓口で家のことを考えていきましょう。」と、厳しい現実をお伝えしたと思った後に出た一言は、「あ

りがとう。どうしていいかわからんで不安だったから、話を聞いて良かった。」と感謝の言葉でした。行政の手が回らず、助けをどこに求めて良いかわからない人たちがきっとまだまだ沢山いらっしゃいます。

日頃より大倉山の地域は防災を視野に入れた町内会や学校の活動が盛んですが、有事に支援から漏れてしまう人たちを1人でも減らすためには、町内会単位でなければ皆の困りごとを拾いきれないと痛感しました。顔の見える範囲の連携です。

自分が見てきたことはごく一部ですが、今も自分たちの足で立ち上がらなければ、と「がんばるけん!!」「できるしこ!! (できるだけ)」を合言葉にする友人や後輩たちに、自分が励まされる日々です。継続した被災地支援をぜひとも、よろしくお願いいたします。

「架け橋聞こえなかった3.11」

5月11日鎌倉映画祭に行きました

自身も耳が聞こえない今村監督が宮城県の聴覚障がい者取材したドキュメンタリー映画で、まず東北大震災が起きた時、津波警報や避難放送がわからず逃げ遅れ命を落とした...と言う悲しい現実、聴覚障がい者にとって大きな問題が伝えられる。そして監督自身の手話の問いに対し、災害に遭われた方々は当時の生々しい実情を同じく手話によって語られてゆく。手話の対話が被災者の心を開き、支えとなり、励みとなってゆく姿が画面を通して伝わってくる。また、仙台聴覚障がい者協会長が、安否確認に走り回り、困っているろう者の手助けや、情報センターの立ち上げと、疲労が重なり体をこわされ入院されてしまう。手助けする側も困窮してしまうと言うこれも大きな問題だと思知らされて心が痛む。

映画は音声と字幕付きであったが、映像はほとんど手話での会話で、健聴の方が聞こえない人の状況を少しでもわかっていただけたかと思う。普段から近所や地域の方との交流が大切であり、聞こえない人が積極的に防災訓練に参加することで「自助」「共助」「公助」へとつながり、映画のタイトル「架け橋」の意味が素直に心に入ってくる。津波の凄さ、被災者の苦しみ、孤独で暗いシーン

が続く中、流されてしまった花壇に種もまかないのに再び同じ場所に花がいっぱいに咲いた画面に驚かされた。監督と被災者が花を見ながら手話で語り合う一時「希望を持って!」と花々に無言のサインを送られているようなワンシーンに心とむ思いであった。聴覚障がい者だけでなく広く一般の人にも見ていただきたい映画だと強く思った。一日も早い被災地の復興を願わずにはられない。

聴覚障がい者協会 児玉安代



いろいろな意味で「静か」に語りかけてくる映画です。

はじめまして 総務課防災担当 厚地 潤

今年度から、港北区役所で防災を担当することになりました厚地 潤と申します。防災関連の業務については、私にとって初めての経験ですが、住民の方の命や生活を守る重要な分野となるので、身の引き締まる思いです。また港北区は私にとって身近な場所ですので、愛着を持っています。そんな港北区役所で働けることになり、とても嬉しく感じています。

4月の熊本地震や5年前の東日本大震災など様々な現状を見ていく中で、被災者へのサポートや被災地の復興において、ボランティア支援の果たす役割が非常に重要になると感じています。また将来は、ここ横浜でも大きな地震等の様々な災害が発生することが予想されます。そのときは、港北区災害ボランティア連絡会の皆様力が非常に重要になると考えています。区役所としても災害発生時に災害ボランティアセンターが有効に機能するように協力していければと思いますので、港北区災害ボランティア連絡会の皆様には、今後とも発災時の活動を想定した取り組みをよろしくお願い致します。

～地震では保険金は支払われないか～

地震保険の基礎の基礎

ボーイスカウトの中島さんは以前損害保険会社に勤務をしていました。その時の知識をもとに、最新の情報を加味して、地震と保険についてお話しをしてもらいます。

保険には、生命保険・損害保険ともに「保険金を支払わない事故」というものが定められています。保険の種類により内容は様々ですが、その中で「地震・噴火・津波」についてお話しをします。

生命保険では、「地震・噴火・津波」が原因であっても、死亡保険金は支払われます。ただし、保険金が割増しされる「災害特約」や「障害特約」については、その保険金が減額されたり、支払われないことがあります。ただ、過去の地震のケースでは、減額となったり、支払われなかったことはありません。それだけ、日本の生命保険会社の支払い余力は大きいということです。

一方、損害保険（火災保険・自動車保険・傷害保険）では、「地震・噴火・津波」では、原則として保険金は支払われません。一般住宅以外の火災保険では「地震拡張担保特約」が、自動車保険では「地震担保特約」などが、傷害保険では「天災危険担保特約」があり、それらをつけることで、「地震・噴火・津波」であっても、保険金が支払われます。ただ、保険会社が慎重な引き受け姿勢であったり、特約保険料が高額であったりすることがあります。かつては、「地震・噴火・津波」は、「原子力・放射能汚染」「戦争・暴動・クーデター」とあわせて、支払い対象とすることのない「絶対免責」などといわれていましたが、現状ではそこまでの「拒否」姿勢ではなくなっているようです。

中島一郎 続く

住むところが無くなる怖さを考えよう

住まいは生活の基盤です。住まいが無いことがどれだけの困難と不安を呼ぶことかは、多くの被災地が教えてくれています。その先の生活はどうなるのかを想像することは災害対策の出発点と言えるでしょう。家の再建は多額の費用が必要ですが、保険はそれをある程度カバーしてくれます。保険金が高いからと加入しない人が多いのですが、ぜひ加入しましょう。

白幡小学校で行われたボーイスカウトバザーにスペースをいただいて、連絡会の広報活動と物品販売をしました。当日、朝小雨がなかなか止まず、少し不安ではありましたが、ボーイスカウトの皆さんのご協力で、活動を無事終わられました。ボーイの方からのご厚意で、テーブルを1台貸していただき、小雨の中の物品販売とても助かりました。又、物品のポップも「どろっぷ」のお母さんの協力で作っていただきました。このように皆さんのつながりの中、広報活動が出来て良かったと思いました。

ニュースと連絡会のリーフレットを配布して、広報活動をしました。ボーイのリーダーの方は、ほとんどが連絡会のことをご存じのようで、うれしい思いがしました。支援物資として、準備した「りんごジュース」と「米粉パスタ」は午後2時前に完売しました。パスタの試食を準備したのが良かったと思いました。又、「復興支援のための物資です」とお話ししながら販売をしていると、「まだまだ復興に時間がかかっているみたいですね」と言っていた方も多くいました。早い完売に、社協に少しパスタを残してきたのが残念に思えました。

次回もぜひ参加してくださいとボーイスカウトからお声をかけていただきました。その時には、もっとアピール性のあるパフォーマンスをしたいと思いました。それには連絡会として、いろいろな情報を流せるよう日頃から耳を傾ける必要があると再認識しました。

付岡博子

編集後記

☆今号は多くの方の寄稿を頂き、多彩な内容となりました。熊本地震は報道量が激減していますが、復興の道のり遠いです。いろいろな形で応援していきましょう。

(宇田川)

☆行きつけの酒屋さんで熊本応援フェアをやっていました。球磨焼酎を購入しました。それから磐城壽があったのでそれも購入しました。

(山本)

☆「どろっぷデー」では災ボラスタッフの皆さんがブース手伝いに来てくれました。港北の地域全体で被災地とのつながりを深めていけたらと思います。

(山口)